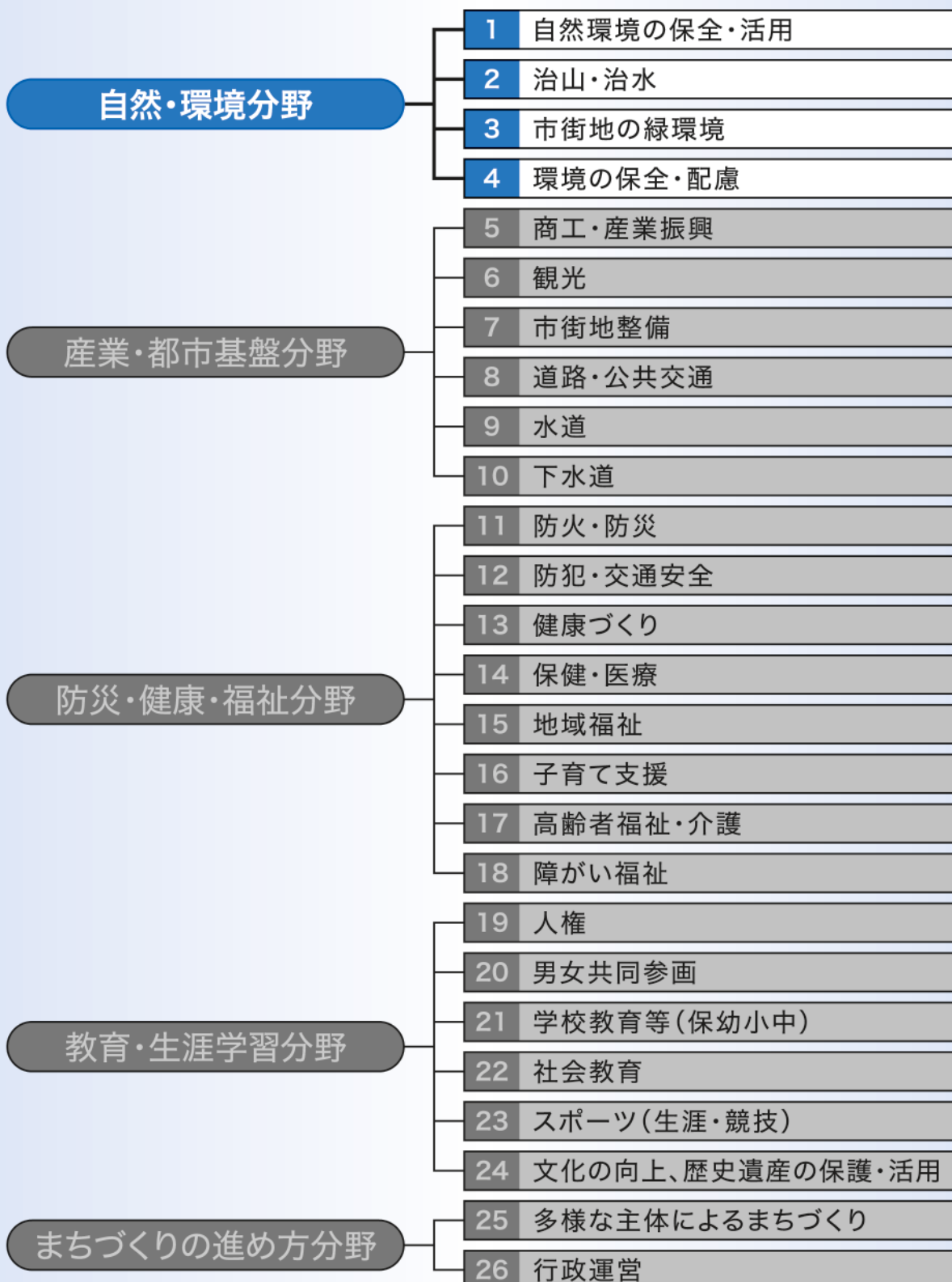


大山崎町まちづくりビジョン2025・ 前期基本計画



自然・環境分野

1. 自然環境の保全・活用

めざす姿
(施策目標)

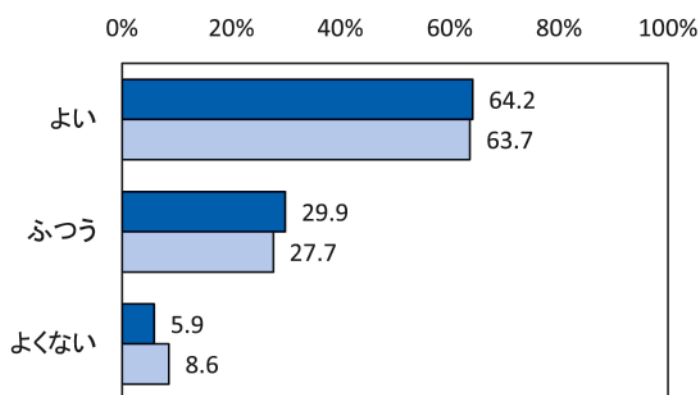
自然と調和した豊かなまちが形成されている

【現況と課題】

- 本町は、大都市周辺地域にあって都市化が進展しながらも、天王山や淀川・桂川の水辺空間といった雄大な自然環境を有していることが大きな特徴です。
- 天王山の樹林地は、景観面でも本町の市街地にまとまった緑を提供し、また山麓部では天王山と緑が調和した落ち着いた住宅地の景観を形づくっています。また、天王山周辺の社寺をはじめ、西国街道や農業集落等における歴史的・伝統的な町並みが残っています。
- 本町のシンボルである天王山は京都府・大阪府にまたがる大都市圏の生活環境を形成するとともに、スギ・ヒノキの造林やタケノコの生産など、幅広い利用が行われています。また、名神高速道路や新幹線などが集中する交通の要衝を災害から守るという側面と、水源地として質の高い豊かな水を提供しています。
- 本町は淀川水系の桂川・宇治川・木津川の三川が合流する全国的にもめずらしい地域です。また、地域の中核となる河川敷については、淀川河川公園（国営）の整備計画等に沿った自然環境と調和した拠点整備が進められています。
- 河川は、防災空間や町民のレクリエーションの場、そして生活環境や都市環境にうるおいとやすらぎをもたらす貴重なオープンスペースとして活用されるだけでなく、野鳥などの希少な生き物も生息しています。今後も、自然環境を保持しつつ、都市環境と調和した貴重なスペースとして有効に活用していく必要があります。
- 住民意識調査による「自然環境の保全・豊かさ」の満足度は、「よい」が64.2%、「よくない」が5.9%となっており、今回行った分野別の満足度において最も評価が高いものとなっています。また、「10年後にあってほしいまちの姿」を尋ねた設問においても「山・緑と川・水に囲まれた自然の豊かなまち」が55.4%と半数を超え、また小中学生調査においても「天王山・山」が本町の自慢であると答えています。
- 天王山は戦前においては薪の採取やタケノコの生産拠点として関わりの深いものでしたが、戦後のエネルギー革命により、山に入って燃料を確保することが少なくなりました。天王山の

「自然環境の保全・豊かさ」の満足度

■ 今回調査(n=579) ■ 前回調査(n=505)



資料：住民意識調査

竹林の多くが個人所有物であり、原則としては地権者による維持・管理が必要となります。しかし、所有者の高齢化や担い手不足、後継者不足等の理由から維持・管理が難しくなったことで放置竹林が多くを占めるようになり、防災や水源かん養、景観等の面からも改善が必要な状況になりました。そのため、平成 17 年度に天王山周辺森林整備推進協議会を立ち上げ、天王山周辺森林整備構想を策定し、年間数ヘクタールの放置竹林、拡大竹林の間伐・全伐を行い、里山にふさわしい適正な森林に戻す作業を続けています。しかし、本町による取り組みだけでは、十分な整備が難しいため、天王山というブランド力を町内外に発信し、企業や大学、ボランティア等を引き込みながら、天王山の保全に向けた取り組みが必要です。



- また、天王山の現状に対する周知・啓発をはじめ、ボランティア活動や体験学習等を通じて、天王山の保全に対する意識の向上を図る必要があります。

【言葉による施策の成果目標】

- 身近で親しみやすい天王山が維持されています。
- 自然と歴史・文化が調和した景観が形成されています。
- 天王山、淀川・桂川、市街地の水辺空間等を結ぶネットワークが形成されています。
- 天王山、水辺の環境が保全され、自然共生型のレクリエーション、各種スポーツ、健康づくり等の場として活用されています。
- 町民・ボランティア・事業所（企業）・大学・行政等が連携し、一体となって、自然環境の保全に取り組んでいます。

【施策の成果の達成を測る指標】

指標名	現状値	目標値		補足
		平成 32 年度	平成 37 年度	
伐採ボランティア団体・企業数	8 件 (平成 26 年度)	8 件以上	10 件以上	
「自然環境の保全・豊かさ」の満足度	64.2% (平成 26 年度)	69.2%	74.2%	住民意識調査で「よい」と答えた人の割合
「天王山が自慢」と答える小中学生の割合	55.4% (平成 26 年度)	60.4%	65.4%	小中学生調査で「天王山が自慢」と答えた子どもの割合

【関連する個別計画】

- 大山崎町森林整備計画
- 大山崎町都市計画マスタープラン

【用語解説】

オープンスペース：公園や広場、川とその河川敷など開放的な空間で、だれもが自由に出入りができる場所。人々の休息や憩い、イベントやスポーツなどに活用される。

自然・環境分野

2. 治山・治水

めざす姿 (施策目標)

安全な山と川に囲まれ、誰もが安心して暮らしている

【現況と課題】

- 本町は天王山、淀川・桂川といった自然豊かな山と川に囲まれ、うるおいのあるまちとなっています。近年、大雨や地震等による大規模な自然災害が全国の各地で起こっており、本町においても例外ではなく、災害対策が必要です。
- 天王山の放置竹林等の問題は自然体系にも影響を及ぼし、これに伴う獣害も問題となっており、里山の農作物等の被害の進行や生態系にも強い影響を及ぼしています。加えて、天王山は地すべりや山崩れ、土石流等による災害が起こりやすい地質であるため、適切な治山対策が必要となります。
- 天王山には様々な文化施設や観光施設が立地し、ハイキングコースが設定されていることから、観光客の集客、また健康づくりや体験学習の場としての活用も期待されます。そのため、天王山の保全・整備、治山対策など、様々な面で検討が必要です。
- 本町は淀川水系の桂川・宇治川・木津川の三川が合流していますが、都市化に伴って流域の保水機能が減少し、流出量が増大していることから、今後も保水機能の回復と安全性の確保を図っていく必要があります。



【言葉による施策の成果目標】

- 治山事業が進み、安全な天王山になっています。
- 総合的な治水対策ができています。
- 「淀川水系河川整備計画」に基づく河川整備を関係機関とともに連携し、治水対策の向上が図られています。

【施策の成果の達成を測る指標】

指標名	現状値	目標値		補足
		平成 32 年度	平成 37 年度	
森林整備面積	46.11ha (平成 26 年度)	60ha	70ha	

【関連する個別計画】

- 大山崎町都市計画マスタープラン

【用語解説】

淀川水系河川整備計画：平成 21 年 3 月に国土交通省近畿地方整備局が策定した河川整備計画。



自然・環境分野

3. 市街地の緑環境

めざす姿
(施策目標)

身近に心安らく緑の環境が形成されている

【現況と課題】

- 本町の公園は、平成 24 年現在で町民の暮らしに身近な公園として、街区公園が 21 か所、一般公園が 29 か所を整備しています。また、町民一人当たりの公園面積は平成 24 年で 10.1 m²/人で都市公園面積の参酌すべき基準を満たしています。

また、町の東側を流れる淀川・桂川における町域内は、河川敷を含めて桂川緑地として都市計画に決定され、その河川敷には国営淀川河川公園、町営桂川河川敷公園（運動公園）を整備しています。

- 淀川・桂川については、上記の両公園の機能連携とともに、今後も「淀川水系河川整備計画」「淀川河川公園整備計画」に基づいた整備が期待されています。
- 住民意識調査による「公園・緑地等の環境」の満足度は、「よい」が 28.1%、「よくない」が 18.9%となっており、前回調査から「よくない」は減少していますが、「よい」は変わらない状況です。

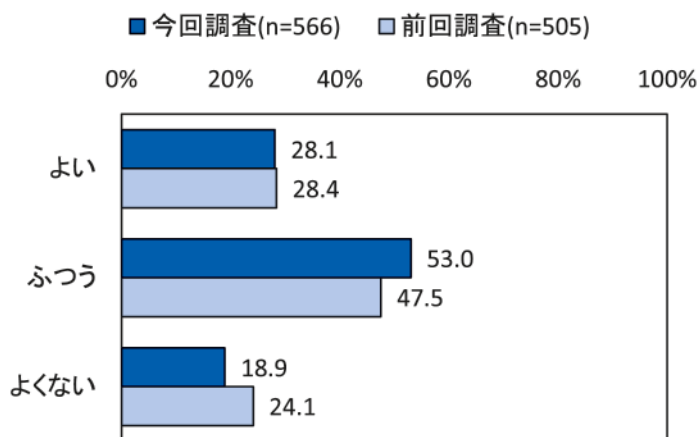
- 本町は広域幹線交通網が集中しており、第二外環状道路等の完成に伴って、これまで以上に地域コミュニティが分断された形となっていますが、これらの高架下空間を有効に活用するため、多目的広場、公園等を設置することにより、憩いとふれあいのあるコミュニティ活動に寄与しています。

公園の整備状況

	都市公園		一般公園	総数	町民一人当たりの公園面積 (m ² /人)
	街区公園	その他の公園			
平成 20 年	21	2	27	50	9.0
平成 21 年	21	2	28	51	9.0
平成 22 年	21	2	28	51	9.1
平成 23 年	21	2	29	52	9.1
平成 24 年	21	2	29	52	10.1

資料：建設課

「公園・緑地等の環境」の満足度



資料：住民意識調査

- ゆとりある都市環境を維持・向上させていくためにも、地域の資源を活用しながら、公園・緑地を充実していく必要があります。
- 本町の農地は、その多くが市街化区域内にあります。本町の農業は、農家数、経営耕地面積ともに減少傾向にある一方で、営農意向の強い農家も多い状況にあることから、都市近郊型農業として支えていくとともに、市街地において適切に保全・活用していくことが必要です。

【言葉による施策の成果目標】

- 公園・緑地が整備され、ゆとりある都市環境が形成されています。
- 町民との協働により、公園・緑地の環境が保たれ、誰もが愛着を持っています。
- 鉄道・高速道路の高架下空間が町民のコミュニティの場として活用されています。
- バリアフリー化に取り組み、町民誰もが気兼ねなく公園を利用できています。
- 公園が災害時の一時的避難・集合場所、有事の際のスペースとして定着しています。
- 農地が農地として維持管理されています。

【施策の成果の達成を測る指標】

指標名	現状値	目標値		補足
		平成 32 年度	平成 37 年度	
「公園・緑地等の環境」の満足度	28.1% (平成 26 年度)	38.9%	49.5%	住民意識調査で「よい」と答えた人の割合

【関連する個別計画】

- 大山崎町都市計画マスタープラン

【用語解説】

都市近郊型農業：都市の近く（近郊）で作られる農産物は鮮度が高く、輸送費用のコストも抑えられるという利点を生かした農業を「都市近郊型農業」という。



自然・環境分野

4. 環境の保全・配慮

めざす姿
(施策目標)

環境問題の解決を自分のことと捉え、自ら行動している町民が増えている

【現況と課題】

- 地球環境の問題として、地球温暖化やエネルギー問題、ごみ問題、廃棄物処理など、様々な環境問題があり、一人ひとりが社会問題として認識する必要があります。

- 住民意識調査による「環境に配慮した生活」の満足度は、「よい」が22.4%、「よくない」が11.7%と、「よい」が「よくない」を上回っています。

また、「ごみの分別やリサイクル」への行政の取り組みに対する満足度は、「よい」が47.9%、「よくない」が8.3%と、約半数の人が「よい」と評価しています。

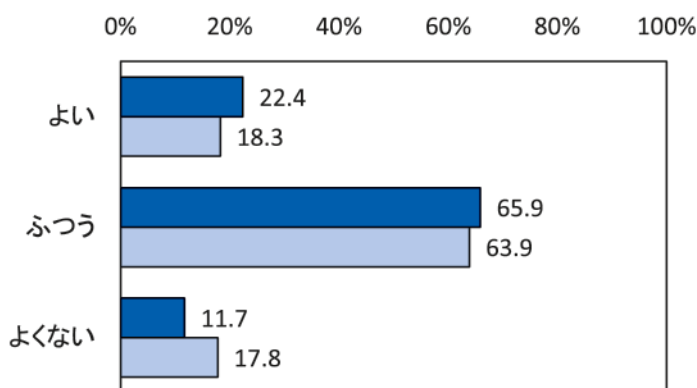
- 本町のごみの収集量は平成20年度で3,520t、平成24年度で3,219tと年々減少しており、町民のごみ減量化の意識は年々向上しています。

- 環境問題を学ぶ機会として、小中学校における天王山の森林保全活動の実施やエコスクールを通じた環境教育を実施しています。また、町民に対しては広報を通じた周知・啓発や乙訓環境衛生組合の焼却場、埋め立て処分場の見学会を行っています。今後も様々な機会や媒体を通じて、環境問題に対する意識を高めていく必要があります。

- 一般廃棄物処理は、乙訓2市1町による乙訓環境衛生組合により処理を行っています。ごみの収集量は年々減少しているものの、一般廃棄物は十数年後に埋立地が満杯になると予測され、次の埋立地をどこにするのが課題です。

「環境に配慮した生活」の満足度

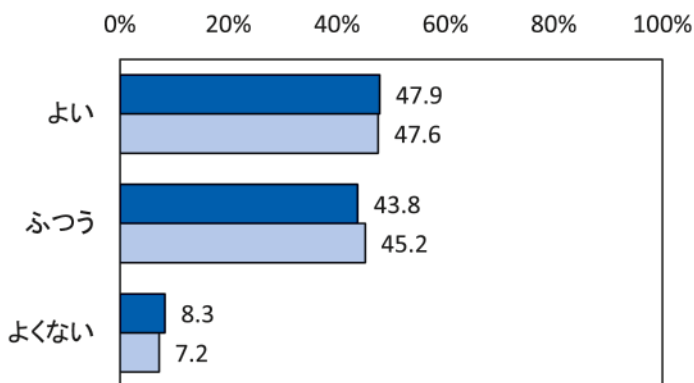
■ 今回調査(n=557) ■ 前回調査(n=505)



資料:住民意識調査

「ごみの分別やリサイクル」の満足度

■ 今回調査(n=566) ■ 前回調査(n=505)



資料:住民意識調査

- 環境問題は他人事ではなく、自らの意識で取り組むことができることであり、リデュース（ごみの発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（ごみの再生利用）、省エネルギー、再生可能エネルギーなどの環境にやさしい取り組みを、町民・事業者・行政などが一体的に取り組む必要があります。

- 町内の清掃活動としては、ゴミゼロ運動及び町内一斉クリーン作戦の実施など、町内の事業所、町内会・自治会と協力して、清掃活動を推進し、モラルの向上と美化思想の普及に努めています。

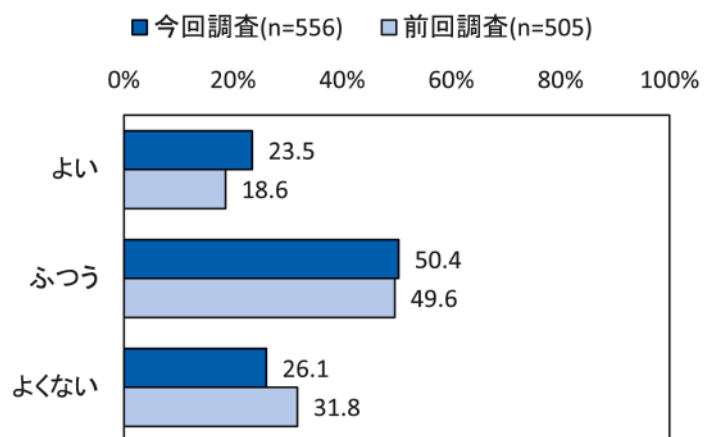
今後も、動物の飼い主のモラルや喫煙者のマナーの向上、不法投棄撲滅などの環境美化意識の向上により、美しくさわやかなまちづくりを進めていく必要があります。

- 本町の道路網として、名神高速道路、京都第二外環状道路が縦横断し、一般道路では国道 171 号が縦貫し、国道 478 号が京都第二外環状道路と並行し、利便性の高い交通環境を提供する一方で、自動車の騒音や排出ガス等による問題もみられます。

- 住民意識調査による「騒音・振動等の公害の抑制」の満足度は、「よい」が 23.5%、「よくない」が 26.1%と、半数が「ふつう」と答えているものの「よくない」が「よい」を上回っています。

- 名神高速道路大気常時観測は、自動車排出ガス規制強化やエコカーの普及等により、過去 10 年間の調査において、沿線の大気汚染濃度は漸減傾向を示し、環境基準値を下回っていますが、国道 171 号沿道における自動車騒音は、環境基準を上回っているため、環境保全対策を関係機関に要請することが必要です。

「騒音・振動等の公害の抑制」の満足度



資料：住民意識調査

【言葉による施策の成果目標】

- 環境にやさしい取り組みを実践する人が増えています。
- 環境問題に対して学ぶ機会が充実しています。
- 廃棄物が減量され、リサイクルが推進されています。
- ごみの減量化に対する意識が高まり、ごみの総量が減っています。
- 町民・事業所・行政等が一体となって清掃活動や環境美化に取り組んでいます。
- 環境負荷の少ない社会が構築されています。

【施策の成果の達成を測る指標】

指標名	現状値	目標値		補足
		平成 32 年度	平成 37 年度	
「環境に配慮した生活」の満足度	22.4% (平成 26 年度)	27.4%	32.4%	住民意識調査で「よい」と答えた人の割合
「ごみの分別やリサイクル」の満足度	47.9% (平成 26 年度)	52.9%	57.9%	住民意識調査で「よい」と答えた人の割合
「騒音・振動等の公害の抑制」の満足度	23.5% (平成 26 年度)	28.5%	33.5%	住民意識調査で「よい」と答えた人の割合
再資源化率	6.0% (平成 24 年度)	向上	25.0%	阪神京滋フェニックス事業連絡協議会の目標値
一人 1 日当たりごみの収集量	564 g (平成 25 年度)	減少	減少	大山崎町統計書

【関連する個別計画】

- 大山崎町都市計画マスタープラン
- 大山崎町一般廃棄物処理基本計画
- 分別収集計画

【用語解説】

地球温暖化：人間の活動が活発になるにつれて「温室効果ガス」が大気中に大量に放出され、地球全体の平均気温が急激に上がり始めている現象のこと。

